

【巻頭言】お福分け

矢ヶ崎紀子 Noriko Yagasaki

地域鉄道と食の関係が気になるこの頃です。

根っから食いしん坊なせいばかりではないと思うのは、いすみ鉄道の観光急行列車キハ 28 車内の「レストラン・キハ」で楽しむ「イタリアン・ランチクルーズ・トレイン」が好調だったり、JR九州の豪華&美食列車「ななつ星 in 九州」やJR東日本の全席レストラン空間の新型列車「TOHOKU EMOTION（東北エモーション）」（八戸線）が始動するニュースに接するからでしょうか。

いずれも地元の食材やシェフにこだわり、車窓からの風景も素敵なスパイスにして、人々の心と胃袋を虜にしています。いすみ鉄道の「イタリアン・ランチクルーズ・トレイン」は試乗&試食の機会を頂き、地元の若手シェフが地元素材をふんだんに使って、とても誠実に美味しいイタリアンをつかっており、その配膳のタイミングも見事でした。

もっとも、何より試乗客をびっくりさせたのは、社長自ら狭い通路を巧みに使って飲み物のサーブをしてくださったことでしょう。キハ 28 車内が、一瞬、飛行機の中に見えました。

こうした最近の取組ばかりではなく、地域鉄道は昔から地元の食と密接な関係でした。

津軽鉄道のストーブ列車もそうです。地域鉄道に乗って、のんびりと地元の美味しいものを食べ、呑み、移りゆく車窓を肴に同行者と楽しく語らう。これは、なかなか贅沢な時間の過ごし方ですので、もっと多くの方々に楽しんでほしいと思います。

ゆくゆくは、訪日外国人の方々にも、こうした楽しみ方をお福分けしたいものです。

観光庁の調査によると、日本に旅行に来た外国の方々には、次回の訪問で、日本食を食べること、温泉、ショッピング、自然・景勝地の観光、

四季の体感（花見、紅葉、雪など）、旅館宿泊などをしてみたいと回答しています。

これらの項目のなかには、地域鉄道がまとめて提供できるものもあります。日本に初めて来る外国人は東京・富士山・京都といったゴールデン・ルートを好みますが、二回目以降の人々は「日本らしいこと」を求めているのであり、私たち日本人が楽しみにしていることをお福分けする発想もよいのかもしれない。

いつか、日本人と訪日外国人が同じ車両のなかで、仲良く、四季折々の風景を愛で、地元の美味しいものを楽しんでいる光景が繰り広げられるのではないかと夢想している次第です。

矢ヶ崎紀子 氏



首都大学東京 都市環境学研究科観光科学域 特任准教授。

2008年から2011年国土交通省観光庁参事官として観光経済を担当。

国土交通省交通政策審議会委員、株式会社日本総合研究所 総合研究部門上席主任研究員としても活躍。観光、地域経営、地域の活性化をテーマに数多くの提言を行なってきました。

2012年からは国土交通省の「地域鉄道の再生・活性化等研究会」の座長を務めており、本年6月には当法人が主催する地域鉄道フォーラムでご講演をいただきました。